

Y/3
朝日

家族類型の割合の変化	一人暮らし	夫婦のみ、夫婦と子	ひとり親と子	その他	
1990年	23.1%	15.5	37.3	6.8	17.4
2015年	34.5	20.2	26.9	8.9	9.5
2025年 (推計)	36.9	20.7	25.3	9.5	7.6
2040年 (推計)	39.3	21.1	23.3	9.7	6.6

一人暮らし世帯 2040年に39%に

2040年に全世帯に占める一人暮らしの割合が39・3%に達する」とみられることが、国立社会保障・人口問題研究所が12日に公表した「日本の世帯数の将来推計」で分かった。未婚や晩婚の人が増えているため、65歳以上の一人暮らしはほぼ4人に1人の22・9%になると予測している。

推計は5年に1度で、今回は15年間の国勢調査をもとに40年まで出した。
15年の一人暮らし世帯の割合は40年は4・8%が34・5%（1994万世帯）になる。40年は

障・人口問題研究所が12日に公表した「日本の世帯数の将来推計」で分かった。未婚や晩婚の人が増えているため、65歳以上の一人暮らしはほぼ4人に1人の22・9%になると予測している。

社会保障・人口問題研 推計

1970年代前半生まれの「団塊ジュニア」が高齢者となり、高齢者人口がピークを迎えること重なる。高齢者の一人暮らしも、15年の18・5%から4・4%増える。高齢者の一人暮らし割合を男女別にみると、男性は15年の14・0%（206万人）から40年に20・8%（356万人）に、女性は21・8%（420万人）から24・5%（540万人）になる見通しだ。

また、高齢者世帯全体では15年の1918万世帯から40年には242万世帯に増え、割合は36・0%から44・2%に上昇。このうち75歳以上の世帯主の割合は46・08人になる。

同研究所の鈴木透・人口構造研究部長は「未婚の単身高齢者には生活を助ける家族がおらず、国や社会がどう支援の役割を分担していくかという議論が求められる」と指摘している。（佐藤啓介）

1970年代前半生まれの「団塊ジュニア」が高齢者となり、高齢者人口がピークを迎えること重なるため、15年の5333万世帯からしばらく増え、23年に5419万世帯でピークとなる。その後は少子化の影響で減少し、40年は5076万世帯となる。平均世帯人口は15年の2・33人から40年に2・08人になる。

世帯総数は少人数の家庭が増え、15年の5333万世帯からしばらく増え、23年に5419万世帯でピークとなる。その後は少子化の影響で減少し、40年は5076万世帯となる。平均世帯人口は15年の2・33人から40年に2・08人になる。

世帯総数は少人数の家庭が増え、15年の5333万世帯からしばらく増え、23年に5419万世帯でピークとなる。その後は少子化の影響で減少し、40年は5076万世帯となる。平均世帯人口は15年の2・33人から40年に2・08人になる。